

どっこい生きてます!



すっかり潮騒ジョブトレーニングセンターの歳末風物詩となった、施設を挙げての餅つきイベント風景(昨年12月28日、下津ナイトケア駐車場)です。「家族には恵まれなくても、せめて正月を前に入寮者においしい餅を腹いっぱい食べさせたい」(栗原センター長)との熱い思いで始まった歳末餅つきですが、入寮者の増加で長い列ができ、広いはずの駐車場が狭く感じられるほどでした。今回は杵と臼による手つきでは間に合わず、機械での取り組みとなりました(関連記事は次号で)。

2018

1

2018年を 就労支援第2ステージの スタート年に



2018(平成30)年が明けたと思ったら、もう2月が目前です。今年も時間に追い立てられそうな気配ですが、私も来月には75歳になります。人並みに老いへの自覚を深め、少しは落ち着きを持ちたいものです。そこで、今年こそは「焦らず、力まず、自然体で」をモットーに潮騒ジョブトレーニングセンター(JTC)の運営に当たりたいと思います。これまではともすると全力投球のがむしやんな歩みが目立ちましたが、今年は一呼吸置いて潮騒の仲間と共に自分達の足元を見つめ直したいと思います。繰り返しになりますが、潮騒JTCはダルク(DARC)の関連施設です。というか、ダルクで助けられた私は依存症の回復については、ダルクのやり方しか知りません。なので、ダルクのノウハウをバックボーンに自分の持ち味を生かしながら、今後もスタッフの力とマンパワーあふれる仲間の力を借りて、特徴ある潮騒JTCの運営に尽力する決意です。

ご承知のようにダルクは、世界に普及している依存症の回復プログラム(12ステップ)を用いて仲間達がリハビリに励み、やがては社会復帰を目指す民間の福祉施設です。ダルクで回復した依存症の当事者がスタッフやリーダーになって運営するのが特徴で、これといった規約などはありません。施設の運営は多くが責任者の手腕と裁量に任され、柔軟性に富む運営スタイルが身上の、社会との中間施設です。そのダルクも30有余年の歴史を刻むものの、肝心な就労や社会復帰がなかなか進展しません。芸能人の薬物事件報道などで名前こそ知られるようになりましたが、社会での就労実績をどうしたら上げられるかが大きな課題です。一步地域に踏み込めば私達が力説する「依存症は病氣」の認識はとても弱く、依然として非行や犯罪者とダブらせた視線が色濃く残り、最後は「趣旨は分かるが、ここではなくどこか他所でやってくれ!」となります。

その一方で、依存症は現代という困難な「時代の病理」の側面をますます色濃くしており、ボーダー上にある広義の「こころの病」分野と重なりながら、高齢化や複合化、孤立化の傾向を一層加速させ、その裾野をどんどん広くしています。もはやダルクの手に余る難題があちこちから持ち込まれており、これらが仲間の回復をより難しくしています。こうした現状から、私は「百年河清を俟つ」よりも、自分達の工夫や自助努力で新たな環境を切り開く道を進みます。これまで通り入寮条件のハードルを低くして、困難な仲間でも受け入れる方針は変えませんが、それだけでは施設への滞留化が進むばかりです。やはり出口を整備して循環型の施設にしなければ行き詰まるのは明白です。そのために農業を中核にした就労支援により一層力を入れ、地元における反発感情に耐えながら仲間達の就労と社会復帰に向けて風穴を開けたいのです。私達のモットーは「一般就労が難しいなら、マンパワーを活かす起業で活路を見出そう!」「何とか自立するスキルを身に付け、自分の食い扶持ぐらいは自分で稼ぎ出そう!」です。理想論や反発は承知の上で、今年は就労支援の第2ステージに向けた試みをスタートさせたい考えです。引き続き、ご支援をお願いします。

(センター長 栗原 豊)



潮騒農業と就労支援の充実、潮騒人間塾の取り組み強化へ ～ 今年初の潮騒プロジェクト会議で方針確認 ～

NPO法人の潮騒JTCは、施設運営の基本方針と事業、予算・決算、人事についての最終決定は、運営主体の法人理事会で決定・承認されますが、個々の場面では当事者主義の原則に従って栗原センター長と事務局スタッフ、各依存症スタッフメンバー（一定のクリーンタイムを積み上げた回復者カウンセラー）の合議制に任せられ、フレキシブル（柔軟）に対応しています。これら三部門の代表メンバーによって構成されるのが、毎月2回開かれる「潮騒プロジェクト会議」です。潮騒の年間イベントや広報、フォーラムなどについて話し合われますが、実質的な施設運営の連絡調整会議の機能を併せ持ちます。今年の第1回プロジェクト会議は1月12日に開かれ、今年の施設運営の方向性や1年間の事業計画、その取り組み方などが熱心に話し合われました。

栗原センター長は、このところ施設全体に蔓延している停滞感に触れ、「人数が多い事を理由にして、自分達の直面する課題に向き合えていないのではないか。そのためにも、仲間が濃密にコミュニケーションを取りやすいようにデイケア・メンバーを小班ずつのグループに分け、各班の先行く仲間がリーダーとなって他の仲間達を引っ張ってほしい」と提案。これを受けてデイケア内に8班が編成され、責任者のツカさんをトップとする指令系統の確認がなされ、デイケアプログラムの一部も見直されました。また、多忙化にあっても同会議にはできるだけ担当メンバーの参加を促すほか、各班リーダーのオブザー

バー参加も歓迎する意向が示されました。

今年の取り組みでは、主に潮騒農業を担う農業隊のテコ入れを図りながら、以前のように作業隊を独立したグループとして編成し直し、それぞれが担うべき作業の分離と役割の明確化を図ること。市民活動に理解のある外資系企業の支援・助成事業に応募して就労支援の第2ステージに繋がる体系的プロジェクトの端緒を切り開く取り組みに着手する事も確認されました。潮騒農業ではメンバーのスリップ対策や内面のケアに力を入れながら、今後も増加する傾向の入寮者を見込み、施設の自家消費に対応するために更に作付面積を増やしてコメの増産に取り組むほか、ほぼハード環境整備を終えた稲わらの加工作業に本格的に力を入れる事などが農業隊メンバーから報告されました。

このほか、前年に不活発だった「潮騒人間塾」の取り組み強化も確認されました。潮騒人間塾はごくふつうの生活者を招いて、それぞれの立場から「生きる」ことについて語ってもらい、それをヒントに入寮者がみんなで自分達の生き方やそのビジョンを考える試みです。よくある有名人の手柄話や教訓めいた講話ではなく、地元や近隣地域などで困難に負けずに市井の片隅で頑張っている人達から話を聞くことで、とすると生活保護依存に陥って無為な日常を送りがちな入寮者に刺激を与え、施設での生活を意義ある方向に促す取り組みです。今年は4～5回程度の開催を目指します。（事務局・潮）



冬のイベント 年末

CHRISTMAS



歳末恒例の潮騒クリスマス会
女性メンバーがパフォーマンスで躍動

潮騒 JTC では年末から年始に掛けて、季節の風物詩ともいえる施設の恒例行事が相次ぎました。12月24日には鹿嶋市宮中の潮騒アディクションビレッジ会館(デイケア)3階の多目的フロアで「潮騒クリスマス会」が開かれ、今年も工夫を凝らした企画や多様なパフォーマンスが演じられました。28日には年の瀬の恒例行事「潮騒餅つきイベント」が下津ナイトケア駐車場でわれ、つきたての餅が入寮者の皆さんに振舞われました。(=餅つきの感想は次号に掲載)

一昨年の潮騒クリスマス会は、支援者の招待に力を入れて公共施設での開催でしたが、今回(昨年)はデイケア施設内で取り组まれました。クリスマスに付き物のチキンとケーキ、さらにお寿司のバックが配られ、入寮者がクリスマス気分を感じることができました。出し物では午前中に潮騒エイサー披露され、とりわけ女性メンバーが躍動しました。午後は各部門や関連団体が入寮者を巻き込んだ多彩なパフォーマンスを繰り広げ、クリスマス的一天をみんなで楽しみました。(み)

「アディクトしない今日一日」 というプレゼントに感謝



「メリー・クリスマス」。僕が何気なくクリスマスが来ると使っているこの言葉には「素敵なクリスマスを」という意味があるらしい。正直なところクリスマスに関してイエス・キリストの誕生日で、良い子はプレゼントが貰えるという程度の認識しかなかった。最近漫画でドイツあたりの地方では、悪い子には石炭など子供には全く嬉しくないプレゼントがされる、という言い伝えがあることを知った。

さて、僕が初めて参加した昨年の潮騒のクリスマス会について触れたい。潮騒のクリスマス会では、元良い子も元悪い子も一緒になってクリスマスをお祝いした訳で、参加者の中に石炭をプレゼントされた人はいなかったことだろう。皆さんが練り上げた様々な催しはとても楽しかった。そして何といってもあの日、僕は潮騒のみんなから「アディクトしない今日一日」という何物にも変えられない大切なプレゼントを頂いたことを感謝したい。心から「メリー・クリスマス!!」。みんなありがとう。(事務局スタッフ・タチ)

何よりもみんなで楽しめた クリスマスイベントで良かった



去年の潮騒クリスマス会、女性施設の私達は趣向を凝らした出し物を演じました。初めての体験だった私は「(失敗しないで)できるだろうか…」と声も震えてとても緊張していました。でも、観客のみんなが笑ってくれたことで少しずつ緊張感がほぐれ、終わった時には自分が持っているエネルギーを出し切れたような達成感を抱きました。何よりもみんなで楽しめたクリスマスイベントで良かったと思います。とにかく体ごと楽しめた自分を、褒めてあげたい気分でした。お菓子やケーキ、お寿司などをいただき、子供に戻れた一日でした。これからも施設が提供してくれる色々なイベントには積極的に参加しようと思います。(あきら)

何もかも新鮮で事前の ハンドベル練習も楽しくやれた



刑務所から11月に出所したばかりでしたので、私には入寮してすぐのクリスマス会でした。塀の中での味気ない暮らしとは180度異なり、何もかも新鮮でした。実は女性メンバーはこうしたイベントには全力投球で取り組む傾向があり、忙しいプログラムを縫って今回も密かに練習を重ねていました。私は、その練習さえも楽しくできました。そ

の甲斐あって、本番ではハンドベルの演奏をたくさんの人達の前で披露することができ、何年かぶりで楽しいクリスマスを過ごせました。来年も楽しみにしています。(ミニー)

若い仲間の刺激に 「負けられないぞ!」との思いで参加

今年の合同クリスマス会で、私達るみの家メンバーはハンドベルと踊りを披露しました。ちょっとした小芝居を入れての演舞でしたが、毎日の練習が大変でした。コスチュームもハロウィンの時のものを着用し、私は昔の暴走族の格好でさらしを巻き、特攻服も着たかったけど手に入らなかったの、それっぽく格好で参加しました。ハンドベルを手に持ち、サングラスを掛け、ランナウエイを踊りましたが、年老いてきているので覚えるのに一苦労でした。でも、若い仲間達に刺激を受け、「負けられないぞ!」と思い必死に頑張りました。いつもながら、るみの家のパワーと団結力は凄いなあ、と感じます。来年はもっとパワーアップして自分も楽しみたいです。(みく)

出番が終わった後は仲間達との 一体感が胸がいっぱいに

初めて潮騒のクリスマス会に参加させていただきました。出し物の順番が来るまでドキドキ、ワクワクでした。出番が終わった後は仲間達との一体感が胸がいっぱいになり、何かとても嬉しかったです。他の参加された皆さんの出し物もとても面白かったです。いずれも楽しめる内容で良かったです。エイサーは何度見てもカッコいいと思いました。みんな素敵でした。とても楽しい一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。(チャコ)

私達50歳代の“ランナウエイ”は なかなかの出来映えだった?

私はウイークデーに就労プログラムに参加しています。今回のクリスマス会の練習は、唯一の休みの日曜日だったので、正直なところ少々きつかったです。私達 50 歳以上の仲間にとってハンドベルや踊りをマスターするのは大変な事なんです。なので、日頃そんな光景を見慣れない皆さんには、さぞかし滑稽なステージ? に映った事でしょう! 確かに男性陣のユニークな出し物も面白かったのですが、でも私達50歳代の“ランナウエイ”は(自分で言うのも何ですけど…)なかなかの出来映えだった? と思います。後は何と言ってもエイサー隊の演舞が最高でした。今後もバージョンアップし、スキルアップして次回のイベントに臨みたいと思います。(マコ)

仲間と一緒に今回参加できた だけでも十分に嬉しい思い出に

確かハンドベルは昔、一度手にした事があったと思うのですが、今回ドキドキしながらもみんなと一緒に晴れの舞台で曲を奏でる事ができた事はとても楽しく、嬉しく、心に残るクリスマスイベントになりました。実は、私の右腕には骨折の怪我で小さな人工骨が入っています。もう右腕は普通には使えないだろうと悲観していたので、仲間と一緒に今回参加できただけでも十分に嬉しい思い出になり、それなりに楽しめました。いただいたプレゼントが身も心も温かくしてくれた事に感謝します。これも素敵な思い出となりました。とにかく今回は、今まで経験したことのないクリスマス会で、るみの家に繋がった事に感謝の気持ちでいっぱいです。今も耳に残るハンドベルの音色に再び出合えるようお願いしながら、私にまったく新しいクリスマスを体験させてくれた施設のプログラムに感謝したいと思います。(ゆーみん)

“お姉様”方のランナウエイは 一生懸命に練習をした成果が

クリスマス会は午前 10 時からのエイサーで始まり、最初にエイサーを見た事がない仲間のために(人気のある)ミルクムナリといちゃりば結の 2 曲を踊りました。何度か外部で演奏をし、潮騒フォーラムでも演舞もしたのですが、今回は会場が来賓席との距離も近く、違う感じで緊張しました。間違えてしまったところもありますが、「見たい」と言っていた仲間達に見せる事ができて良かったです。農業隊など他の部署(チーム)もアイデアを凝らした出し物が多く、大いに笑わせてもらいました。

るみの家(女性ハウス)の出し物もハンドベルのジングルベル、チューリップ、きよしこの夜と“お姉様”方のランナウエイは一生懸命に練習をした成果が出ていました。エイサー隊の踊りもダンシングヒーローとモー娘のラブレットは、本番まであまり覚えていなかった私なのですが、隣の仲間をチラ見しながら踊り、人前での人生初のストッキング被りで踊ったのは、恥ずかしかったのもあったけど、みんなでやれば怖くないという“ノリ”でできました。MCの仲間はまとめるのが上手だったし、度胸のある仲間がいて若いって凄いなって思いました。一番若い仲間がクリスマス会個人のMVPだと思いました。るみの家の女性達が一致団結した一日だったと思います。施設長のルミさんも一緒に交じり、若さを感じました。最高に楽しいクリスマス会でした。(ピノコ)

初詣

& 冬のイベント 新年

初日の出



初訓示
迷ったら必ず
回復プログラムに立ち返ろう!

潮騒ジョブトレーニングセンターでは年明けから、例年通りの流れで恒例行事が続ぎ、入寮者が季節感ある行事を楽しみながら、今年も地道な回復に向けた取り組みの歩みをスタートさせました。世間の仕事始めに合わせて1月4日には、地の利を生かした恒例の鹿島神宮への初詣の後、デイケア3階の多目的フロアで年頭初顔合わせをしました。かつてダルクでは「盆も正月もない。今日一日の回復プログラムへの取り組みがすべて」とされましたが、潮騒では栗原センター長の方針で「私達にとって回復に励む仲間は家族と同じ。なので、家庭にいるのと同じように1年を通して季節感を味わいながら、いろいろな行事やイベントに取り組もう!」と各種の取り組みを推奨しています。

この日の年頭あいさつ(初訓示)でもセンター長は「今年も各自が健康に留意しながら、焦らず平穏平安に回復のプログラムに励もう。それが私達にとっての活動の基本。迷ったら、必ずそこに立ち返ろう!」と訴えました。以下は正月イベントに参加したスタッフの感想ですー。

地の利ある鹿島神宮への初詣で 仲間達の表情を撮りまくった

今年1月4日、私は潮騒ジョブトレーニングセンターの仲間達との鹿島神宮に初詣に行きました。この日は晴天に恵まれ、午前10時にデイケア施設を出発しました。デイケアから鹿島神宮まではわずか15分、まさに地の利を得ての今年初の施設プログラムです。心なしか栗原センター長も仲間達と和気あいの雰囲気、笑顔で歩いていました。デイケア責任者のツカさんは足が痛いために車いすで、美人の職員さんに押してもらって、まるで布袋さまのような笑顔が印象的でした。

私はデジカメをもって仲間たちの表情を撮りまくり、鹿島神宮の門前では全員の集合写真を撮りました。その後仲間たちは参拝に向かいました。どんな願い事をしたのでしょうか…、多少気になりました。私はおみくじを2枚買い、1枚をツカさんに渡しました。そのツカさんは吉、私は半吉でした。それから私は財布から小銭を取り出し賽銭箱に投げ入れました。私の願いは今年1年クリーンでいられますように、です。センター長はどんな願いをしたのでしょうか。私は潮騒にお世話になって2年5カ月が過ぎました。おかげで一口もお酒を飲まずにいられています。この経験を大切に今日一日生きてゆきます。ありがとうございました。(シゲ)

潮騒生活10年目にして初めて 下津海岸に初日の出を拝む

2018(平成30)年元旦、潮騒に入寮して10年目にして初めて下津海岸に初日の出を見に出掛けました。朝6時45分頃に海岸に着くと、日の出スポットとして人気らしく既に人の山が出来ていました。幸運にも天気にも恵まれた中、鹿島灘の水平線上にほんのり太陽が上り始めると、私は神々しいご来光に向かって夢中でカメラのシャッターを切りました。一年の計は元旦にありです。そして事始めの4日には、潮騒の仲間全員で鹿島神宮に初詣に出かけました。おみくじを引いたら大吉を引き、「物事はゆっくり進め落ち着いた一年を」と書いてありました。お賽銭を入れ、心身とも健康にと祈り、みんなで記念写真を撮りました。以下、年の初めに私がひねった俳句作品を紹介しますー。

◇初日の出下津の浜は人盛り◇事始め下津の浜にて初日の出◇初日見て感謝の気持ち手を合わす◇初日の出今年一年ワンダフル◇初日の出早く来い～春よ来い◇初日の出今年も願う健康で(コバ)

特別
寄稿

デイサービス 百寿

年頭の決意

「居場所の提供」にこそ 百寿の存在価値がある



高齢者介護「デイサービス百寿」代表の加勢誠です。お陰様でこの度、設立4年目を迎えることができました。我々デイサービス百寿も色々な事を経験させていただきました。嬉しい事、大変な事、悲しい事…全てが経験となり明日への原動力となっています。昨年11月より新生・デイサービス百寿として生まれ変わり、慣れ親しんだ百寿亭も名称変更し、新しい門出を迎える事が出来ました。定員も18人から36人となり、多くの利用者様をケアできるようになりました。施設運営コンセプトの第一に掲げる「居場所の提供」「今困っている人への手助け」が、文字通り増員になった事で受け入れ態勢が整いました。

当施設は依存症という病気を抱えた方でも安心して生活ができる、地域の方達との共存、共生を目指し、運営を行っています。全国的に見ても珍しい介護施設で、この分野は今後大きな問題となると自負しております。年々高齢化が進み、10年20年後には今とは比べものにならないほど人手不足となり、利用したい方はいてもスタッフとなる人手が追いつかない、また依存症の高齢者も増えて介護保険が必要になることが現実視されます。ですが、一般には「怖い、犯罪者」のイメージが流布されている依存症の人達が安心して生活できる環境作りは簡単ではないし、現場にはケアをできる職員がほとんど居ないのが現状で、他の(一般)利用者様への危害等が懸念されて利用できないケースが起こると予想されます。

当施設には依存症と診断された利用者様も居ますし、地域の利用者様も居ます。一緒に食事に出かけたり、レクリエーションを楽しまれたり、カラオケをデュエットされたり、一緒に笑ったり、泣いたり、時には怒ったり…、当

たり前の事が当たり前に行われています。他施設を利用出来なくなり百寿に繋がる方、地域から利用に繋がる方、依存症という病気を抱えて繋がる方、それぞれ理由は違えど介護施設を利用されるという事には変わりはないですし、色眼鏡で見て差別する事はありません。必要があり、利用される方の安心・安全を職員一同、協力し今後行っていく——それだけです。

ですが、我々だけでどうにかなる問題では決してありません。100人の中に依存症の高齢者が1人ならば問題にもなりません、100人の中に10人いたら問題視されてしまう世の中だと思います。問題は「できる、できない、看れる、看れない」ではなく、「やるか、やらないか、看るか、看ないか」だろうと私は考えます。依存症の方だけをケアしたい訳でもありません、地域の方だけケアしたい訳でもありません。百寿を利用したいという方をケアする事をこれまで行ってきました。その結果、前述したように共存・共生が自然と行われています。

百寿がオープンしてから、ただの一度も利用者様をお断りした事はありません。私のモットーと言いますか、ポリシーと言いますか、理念と言いますか、「居場所の提供」にこそ百寿の存在価値があると考えております。今後もこの方針が変わることはありませんし、我々を必要としてくれている方が一人でもいるならば全力で取り組んでいこうと考えております。こういった活動、考え方が全国に広がることを切に願います。百寿でできること、百寿でしか出来ないこと、誇りとプライドを持って、平成30年を駆け抜けていきたいと思っております。皆様のご理解、ご支援のほど宜しくお願い致します。(マコト)



「どうにかなるさ」という 達観にも似た落ち着き

栗原 (前回尻切れとなりましたが) 私にとってトムさん(渋谷ダルク代表、坪倉洋一氏)はスポンサーの枠を超えた存在です。その時々での躰を修正する方向に導いてくれる大切な指南役でもあり、トムさんとの出会いがなければ近藤さんとも繋がりはありませんでした。だから私にとってトムさんは、近藤さんにとってのロイ神父と同じく、生涯にわたる師であり、良き同伴者です。困った時に電話すると、トムさんは嫌な顔ひとつせず的確なアドバイスをくれます。つい私が感情に任せて暴走しそうになった時などにブレーキを利かせて、冷静な判断を促してくれます。お蔭で私も大きなブレもなく今日までやって来れました。

——依存症の回復ではスポンサーシップはとても大事な要素ですが、やはりトムさんとの出会いがなければ今日のセンター長はなかったですか？

栗原 そうだね。トムさんは近藤さんの薫陶を受けた、ダルクでも数少ない優れた回復者の一人です。そのトムさんからは自助グループや回復プログラムの重要性を教えられました。さらに人と人との出会いがいかに大切か、ということも。そして自分を棚に上げずに、たえず依存症の当事者である事を肝に銘じるよう教えられました。

施設運営の責任者となった私が目指しているところは、トムさんや近藤さんの魂の奥底に流れている、しなやかでへこたれない不屈の精神なんです。それを言葉で示すのは難しいですが、あえて言うならピンチに陥っても、「どうにかなるさ」という達観にも似た落ち着きですね。

ユタカの凄いところは
他を圧倒する行動力なんだ

連載
第7回

迷った時には、常にそこにシフトするように心掛けています。生意気なようですが、計算づくで動く今の世の中とは対極にある世界観だと思います。

ダルクに繋がる下地は トムさんとの文通で形成された

——そういう意味で栗原センター長にとっては、正に出会いは宝ですね。近藤さんは、その点をどう見ますか？

近藤 この人の凄いところは、俺が見るところ常識を突き破る行動力なんだろうな。例えば霞が関(にある東京地裁)にしょっちゅう出向くだろう、情状証人かなんかで。鹿嶋からだと高速バスで2~3時間はかかるだろうに、それを厭わないんだな、この人は。以前、何度か顔を合わせたんだ。聞けば、わざわざ鹿嶋から裁判の傍聴に来たと言うんだ。直接、自分が出向いて薬物事犯の裁判日程とか被告が誰だとか、何号法廷で開かれるのかを調べて、拘置所の段階で依存症の被告と積極的にコミュニケーションを図っている、っていうから驚いたね。そんな手間の掛かる面倒なこと誰がやる？ 一貫して、それを行っているんだから偉いよ。

——センター長からすれば一種の営業努力ですか？ でも、相手とうまく文通ができて施設に繋がるかどうか…。実際、歩留まりはよくないでしょう？

栗原 営業努力ととられると誤解を招くので嫌だけれど、私にとっては自分の回復に繋がる重要なメッセージ活動だと考えてます。これは私が7回目の受刑となる裁判を受けた際に、トムさんとやった文通体験が下地になっています。まあ、実際にはダルクを知っていて当時、

自助グループに通っていた姪っ子の導きがあった訳だけれど、ダルクに繋がる下地はトムさんとの文通によって形成されたと思うんです。自分自身がそうだったから、よく分かるんですが、孤立した空間の中では外部とのコミュニケーションがいかにか有難いかをね、それを実感していましたからね。

でも、いざダルクという施設に繋がるのには時間が掛かる。ギブアップ(底つき)体験があればいいけど、一步でも扉の外に出て自由の身になるとダルクの事なんか忘れてしまうんですね。うまくダルクに繋がれるにはそれなりにタイミングもある。もちろん運よくダルクに繋がっても、順調に回復プログラムに取り組める訳でもない。そこは時間が掛かりますから。そのうちに扉の中での反省などどこへやら、アディクトの身勝手な部分が頭をもたげて仲間とトラブルやもめ事を起こしてダルクを飛び出て、すぐにスリッパして扉の中に逆戻り…、そんなパターンの繰り返しだから、ご指摘のように歩留まりは悪いですね。だけでも、あえて言えば私と受刑者との回復に向けた種まきかな、と思うんです。実は自分の中に変なポリシーみたいなものがあるんですよ。お金にならないことをいかに続けられるか、そこに自分の回復の意味があるんじゃないか? っていう思いがね。

正しいという確信をもって ダルクをやっていない

——そのところ近藤さんはどうですか? ダルクをつくって33年、「自分の後ろ姿を見る!」という思いはないんですか?

近藤 ないない。そんなもの、そもそも俺は自分が正しいとはぜんぜん思っていないから、正しいという確信をもってダルクをやっている訳ではない。目の前に同じ病気で困っている仲間がいて、こいつら困っているのだからどうしたらいいか? というだけの発想だから…。金儲けや損得勘定は必要じゃない。そういう考えなら俺、ダルクなんてやってないよ。だって、俺自身が回復するためには仲間が必要だという、仲間が集まれる居場所としてダルクをつくろう! —— それだけの理由で始めたんだからさ。その流れでダルクは生まれたんだ。

だけどやってるうちに、あれも必要だ、これも必要だ…となって、関連する施設がどうしても必要になった。同じように俺の事を理解してくれる人や支援者が、自然にかどうかは分からないけど徐々に俺の周囲が増えてきた。仲間と一緒に寝泊まりしてリハビリに励むうちに、昼間だけ集い合って活動できる精神のデイケアも必要になっ

た。そこに、みんなを通わせるようになると、今度は診療所を設けて専門の(精神科)医師が診てくれるようにしたいとなった。医療が金を払ってくれるなら、どこからダルクに理解ある医者を確認しなくては…、という流れで今に至っている。その時々にも生まれる新たなニーズというか、必要性によって関連の施設が整備されてきたような感じだな。

——医療との連携では、近藤さんぐらいの実力がないと力量のある精神科医はなびいてこないでしょう?

近藤 その問題だが、俺達に協力してくれるのは、みんなお金がどうこうではない人たちだからさ。そういう意味では支援者は変わった人達かもしれないな。トラウマの治療をやっている大学の先生(精神科医)なんかは「当事者がやっている医療だから私は来た」と言うんだからね。な、変わってるだろう。そういう先生が一週間に1回、診療してくれている。みんな自分から来てくれるんだよ。もちろん、すぐは難しいから何年か前から目を付けておいて、それとなく水面下で熱心にオファーをする訳だけど…。不思議な事にそういう人達が俺達の前に現れる。

完全なよそ者がいつの間にか 鹿嶋に住みついた形

——それもハイパーパワーの計画でしょうね。そうはいっても潮騒は支援の層が弱いのが課題ですよ。

栗原 それは私が前身施設を始めた頃からの一貫した課題なんです。そもそも私の場合、支援者や家族、キリスト教会関係者の支えや下地があって始めた訳でなくて、行きがかり上、始めたようなところがある。男気と言うか、意気に感じてのスタートだった。だから、いくら鹿嶋に縁があったと強弁しても、言ってみれば完全なよそ者がいつの間にか鹿嶋に住みついた形ですから…。

でもね、10年以上やっていると一つの歴史みたいなもので、こんな私にも理解者や支援者が現れる。それにアルコール依存症の治療では有名な秋元病院との繋がりができた事が大きかったですね。施設発展の礎になりました。一年前に亡くなった名誉理事長の秋元豊先生の励ましは、私にとってはとても大きかったです。

近藤 あの先生は、なんていうかアルコール依存症治療の大家なんだけど、僕らからすると病的とも思えるほどの一面があつてね、それだけに、どこか理屈を超えた親近感があつたね。家族療法や自助グループにも造詣が深かった。でもあの先生、お金の話はそっちのけで依存症の回復については真理をついていたよ。ああいう、いいひと達がどんどん亡くなるなあ、最近は…。(司会進行・広報部)

受刑者からの手紙

気づくのが遅れたが、今回の懲役は相当こたえている

先ごろ、有難い事に身元引受の方が許可となりました。本当に有難うございました。保護観察所宛てに作文なるものも書きまして、身が引き締まる思いです。なにしろ私は前刑出所後、潮騒に入寮してプログラムを実践したのにも拘わらず、一方的に退寮してしまいました。なので、ご多分に漏れずにスリップして逮捕されてしまった訳ですが、何故そうなったのか、その理由を克明に文章にしました。センター長と同じ様に60歳を目前にしての出所となりますが、人生最期のターニングポイントとして暫くは全てのあらゆる欲望を捨てて、潮騒で真剣に依存症の回復に向けたプログラムの実践をしていきたい、と心から思っております。

気づくのが遅かったとはいえ、流石に今回の懲役は自分自身、相当こたえております。何度も反省の弁を述べ、約束したりしても破ってしまったのは他の誰でもない自分なのでから…。いくら弁明しようとも説得力がないと思われるかもしれませんが、今回は少し意気込みが違います。今から6年以上過去の事ですが、センター長からのお手紙の中に「素面の楽しさを味わってみませんか？」と書いてあったのを思い出しました。自分は今まで嘘ばかりついて、何一つ行動に移せない男でしたが、出所後は大好きなアルコールは勿論の事、タバコも禁煙するつもりでいます。自分の身体の事を考えてもいますが、何か一つでもいいから目標を自分に課して達成する喜びを味わってみたい、今回はそんな気持ちになれたのです。

覚醒剤、アルコール、タバコ。この三つの欲望を断つ事が出来れば、あと20年は生きられるのではないかと考えています。若い時は「自分が老人になる迄なんて生きていたくはない」と思っていたのですが、実際に初老が近づいて来て思う事は、「細やかでいいから、幸せになりたい」「穏やかな余生を送りたい」という事です。その為にも今後は潮騒で、しっかりとプログラムに励んでいくしかないと考えます。今までは「俺が俺が」と、自分の事ばかりしか考えなかった私ですが、これからは依存症に悩みを持ち、なかなか自分を変える事が出来ない人達の力にもなりたいと思っています。私もまだ回復はこれからだ、とは思いますが、後5年後、62歳までには独立して自分のお店を持てる様に頑張るつもりです。

覚醒剤に対する欲求が消える事は無いと思いますが、今度は今まで出来なかった「止め続ける事の難しさ」に挑戦したいと思います。いくら口で立派な事を言っても、行動が伴わなければ意味がないですね。自分はまだ満期まで2年7カ月もあるので、今後も回復の為にポジティブな考え方をし、決して心折れる事無く、強い信念を持って受刑生活をしていくつもりです。

栗原センター長は間もなく70代も半ばとなるのに凄いなあ、と思います。洋服のセンスは最高だし、身長は高いし、達筆ですし、高校には通っているし、人望が厚いし、男らしいし、とにかく自分はリスペクトしています。どうか、長生きして下さい。最後になりますが、いつもシゲさん、励ましのお手紙を、有難う御座います。潮騒ジョブトレーニングセンタースタッフの皆様、そして入寮者の皆様の回復を祈っております。(北海道 F・Y)

当地で二度目の冬を迎え風邪を引かないようにしている

前略 シゲさん、元気そうで何よりです。当地で二度目の冬を迎えた私ですが、風邪等を引かない様に気を付けています。昨秋、潮騒でのバースディミーティングでは、シゲさんは2年目のクリーンバースディを迎えて仲間から祝福を受けたとの事。仲間への感謝の気持ちで嬉しかったでしょうね。仲間達の存在というものは本当に有難いですよね。シゲさん、私も真剣に頑張りますよ。お互い良い回復して、社会に花を咲かせましょう。シゲさん、お身体を大切に頑張って下さい。草々。(北海道 M・M)

受刑者の皆さんから頂いた手紙には栗原センター長と担当スタッフが複数で目を通して頂いています。しかし、全員が施設内の役目や多忙な作業を抱えているので、早期の返事が難しい状況です。潮騒通信への掲載にもタイムラグが生じてしまい、「忘れた頃」になっているかと思います。ご迷惑をお掛けしますが、どうか諦めずにコミュニケーションをとってください。

今置かれている立場を自覚し 目標に向かって生きる

シゲさんからの手紙、嬉しく読ませて頂きました。社会で2年間クリーンでいられた事、本当に大変だったと思います。それに比べ、私は社会で1年と持たずに今回で5度目の懲役です。シゲさんや潮騒の皆さんの努力を見習い、私も頑張らねばと思います。低い目標かもしれませんが、出所後先ずは1年、社会に留まりたい。そう思っています。今置かれている己の立場を自覚して、目標に向かって生きていきます。私も、シゲさんの様に頑張りたいです。

さて当地も本格的な寒さとなりました。私は昨秋から CAD 技術者の職業訓練を受けており、パソコンを遣って建築図面を書く資格の取得を目指しています。10名の狭き門に選ばれたので、この機会を無駄にせず勉強に励んでいます。簿記の試験にも挑みました。2つも抱えると時間が足りない程ですが、一日が早く感じます。どちらの試験も合格目指して頑張ります。それと以前もお話しましたが、TV を見ながら俳句の勉強を始め先日、施設の機関誌に応募してみました。しかし素人の作品はやはり素人の作品、ベテランの人には遠く及びません(泣)。でも、これに懲りず勉強し続けて、「潮騒俳壇」に掲載される作品を作れるようになりたいです。

とにかく物凄い勢いで時間が流れていきます。同囚の引き受けが決まったり、面接が入ったり、出所したり、日々変化していく中で、悩んだり、不安になったりする事は多々ありますが、全ては薬に手を出した自分の責任。「己の立場を良く考えながら生活せねば…」とつくづく思います。それだけに栗原センター長が私の引受人になって下さった時、「これで薬と手を切れる」「これで救われる」と心から思った事です。あの時の気持ちをこれから忘れずに生きていこうと思います。

(北海道 S・T)

家族の支援は期待できないので 生活保護を受けたい

私は薬物による収監は4度目なのですが、刑務所を出る度にその事を忘れてしまって、また捕まっの繰り返しです。自分のこれから先の事です、実家には帰れないですし、また戻るつもりもありません。今の所は寮付きの工場にでも就職しようと考えて居ます。しかし、私自身の薬物再使用の不安が常に付き纏います。潮騒さんの方に入所して、自分をしっかりと再構築したいという思いもあります。

家族とは折り合いは悪くありませんが、基本援助は皆無です。私が「施設へ行くかもしれない」と話した所、「その方が良いかも知れない、しかしお金は本当に無いから出せないよ」と言われました。10年程前ですが、色々な施設を転々とした後に現在に至ります。当時は両親に大分無理をさせましたので、今もお金に余裕がないのは分かっていますし、自分もこれ以上迷惑を掛けたくありません。

ですが今回の事件を犯してしまったという理由により生活保護の受給なくては入所出来ません。まだ先の事です、自分で決心出来ないですが、「自分では止められないのではないか?」と悩んで居ます。結婚もしたいし、自宅も欲しいと願っています。その為にも依存症から回復したいのです。何だか旨くまとめられませんが、この五里霧中が今の心情でもありますので、宜しく意を汲み取って頂ければ、幸甚です。シゲさん、激励のお言葉、有難う御座いました。センター長の栗原さん、やや旧聞に属しますが、潮騒通信の平成29年8月号に載せられた「情けは人の為ならず」に共感を得られました。「心ここに在らざれば、見れども見えず、食らえどもその味を知らず」と言いますが、自分は今その心を取り戻したいのです。今の状況は独居でもあり心寂しくもありますれば、何かお声掛け頂けますればやはり幸甚です。

(茨城県 O・H)

しおさい、俳壇

1月のお題

初 日

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.48

センター長 栗原 豊

前回まで少しだけ、かつて日本ダルクのスタッフだったトムさん(現、渋谷ダルク代表)との手紙のやり取りを振り返ったが、いざ下獄してしまうとダルクのことは私の頭からすっかり消え去ってしまった。再びダルクが私の切実な関心事になったのは、出所近くになった時期に姪から手紙で「行ってみたら」と助言されたからだ。実際、もう私にはダルクに行く以外に選択肢がない状況だったのだけれど…。この7回目の受刑生活を最後に、私は通算20年にも及んだ懲役刑の務めにピリオドを打ち、やっとダルクに繋がる事ができた。しかし、この時もすんなりとはいかなかった。今回からは、姪の導きで鹿島ダルクに行き着くまでの流れを振り返ってみる。

2003年(平成15年)3月24日。私は人生最後となる(一応は回復者を自認しているものの、私もアディクトだけに先の事は分からないが…) 刑務所生活を終えて、利根川沿いにある前橋刑務所の正門前に佇んだ。だが、これまでとは明らかに様子が違った。かつての組仲間はもちろん、あれほど面倒みてやっただけのクスリ仲間さえ、誰一人として出迎える者がいなかった。これまでなら私の出所を待つ3ナンバーの車が横付けされて、仲間数人が「お務めご苦労さんでした」とねぎらいの言葉で出迎えてくれた。そうして、さっそく車中で「まずお祝いの一発を」とシャツをまくった腕に注射器でシャブを打ってくれるのが通例だった。しかし、目の前の寒々とした風景を前に、私は怒りの表情で「一体、どうなっているんだ」と無言でつぶやいた。さっきまでの刑務所内での反省などどこへやら、一歩塀の外に出ると私は完全に還暦を迎えた初老の身勝手なヤク中&アル中男に戻っていた。

ややあって、軽自動車が出迎えた姪の姿があった。「ほかに誰も迎えに来ていないのか?」。私は再度、周辺をうかがいながら姪に尋ねた。「私だけだよ」。確かに、いつも出迎える一番仲の良かった仲間二人は糖尿病と肝臓がんで既に他界していることを、獄中で風のうわさに聞いていた。しかし、いざ姪だけの出迎えを目の当たりにすると、改めて自分の置かれている寒々しい現実を思い知らされた。私は姪に「出所したら真っ先にやらなければならない事があるんだ。悪いが私の指示通りに動いてくれないか」と切り出した。姪は一瞬、面食らったような表情を浮かべたが、とりあえず私を助手席に乗車させた。私には獄中で出会ったイラン人受刑者との約束を果たさなければならなかった。ほどなくそれは依存症に毒された者達の笑い話となる妄想劇だと気づくのだが…。(次号に続く)

辛くとも

誰のどこにも
初日かな

特選句



しま
地球は自転や公転をして太陽の恩恵を広く受けるし、毎日の太陽は草木にも人にも恵を与える。思えば、草木にも日陰や日向に育つのがありますが、同様に人間も夫々の生き方を工夫研鑽して強く在りたいものです。大自然の初日の出に人生を重ねた切々の句です。

我が夢を

初日に願ふ
鹿島灘

特選句



れいこ
地球は約四十六億年前に誕生したと言われ、その頃から今も太陽はあり水と土に生命をもたらした。また日本神話で天照大神が国の礎を築いたとされる様に太陽は神の象徴でもある。初日に夢を願う詠だが、鹿島灘の名も神宮の神の尊厳を彷彿する句です。

妻作る

初日の如き
目玉焼

特選句



ゆたか
目玉焼きは誰にでも出来る料理だが、焼き加減には個人の好みがあつて難しい。その目玉焼きが初日の様だと言うのは、妻への賛歌で目出度い新年の句です。

今月の秀逸句

早起きの
窓から望む
初日の出

みく

犬吠埼は日本で早く初日を見れるので有名ですが、太平洋側の海辺の人は晴天なら窓からでも見える。冬は日本海は雪など荒天だが、この鹿島灘は晴れが多い。元旦の用意などで早起きして窓からの初日も女性らしい身近の実感の句です。

仰ぎ見る
ビルの谷間の
初日かな

ゆうみん

初日は犬吠埼や鹿島灘、筑波山の峰などに見るのが神々しく思いますが、東京などではビルの谷間や屋上になり、しかも茜色ではないので趣も異なります。これも現代の初日の句といえましょう。

初日の出
下津の浜の
人出かな

こば

下津は鹿島神宮の東の浜で七不思議の一つの末無し川などあるが、昔から海水浴場でも知られるし、高天原の台地からの眺めも広々している。その浜で焚火などしながら初日を迎える人出で賑わう淑気の籠る句です。

カッブルも
初日に愛を
誓ふかな

ひろ

初日を迎えるのは老若男女を問わないが、少し離れた浜辺で若い二人が初日に祈る様な姿は見ていても微笑ましい。日本では太陽は女神とされて祀られるし、女性の笑顔は太陽でもある。青春の頃が懐かしい句でもあります。

初日拝む
昔は海に
いま炬燵

おの

初日と言えば海か山で、近辺では犬吠埼、筑波山などで私も若い頃は出かけたが、今はこの近くの浜か家の二階などである。テレビで富士山や桂浜の初日を見ることもあり、老いの実感を思う句です。

鹿嶋野の
初日に祈る
老夫婦

しげ

鹿嶋には高天原の地名もあり天孫降臨の古代も思い、国譲りの使いの神や防人の出発地としても伝えが多い。その鹿嶋野に登る初日に老夫婦の祈りは何だろうか。人には諸々の祈りがあるが、老いの祈りは健康か孫子達の幸せかも。しもしみした句です。

佳作

楽しくて皆で笑ふ初日かな	あきら	朝早く初日見んとて鹿島灘	いるか
我が子との再会願ふ初日かな	めい	初日の出家族の幸を願ひたる	みく
鹿島灘清々しきに初日の出	くま	色々の雲の中より初日の出	ゆうこ
初日の出何時も楽しい仲間達	しの	初日の出何時も楽しい親子かな	ミニー
初日の出子等と見れない淋しさよ	まこ	来年こそ必ず見るよ初日の出	ちゃこ
初日の出見に行けなくて朝の窓	なん	初日の出今年の幸を祈るかな	びのこ
初日の出皆で楽しく今年もね	かよこ	右の目の術後眩しや冬日向	ゆたか
今年こそ逃げぬと誓ふ初日かな	かこ	一と栗抱きて離さぬ冬薔薇	ゆたか

どっこい

私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第13回

自助グループに足が向かわず病院での閉じこもり傾向に

前回述べたように、病院の指導に従って真面目に自助グループ(AA)に通う若い入院仲間の意見を聞いたりして、僕は担当のケースワーカーの助言に従い2010年4月に生活保護受給の手続きをして、この国の福祉制度の世話になることになりました。既に妻と離婚していた僕は、住む場所を失っていたことから、この病院に住所を移しており、ここが僕の治療生活の拠点でした。病院内の治療プログラムは4月から3カ月で終わるはずでしたが、病気の深い僕はいつの間にか病院依存になりかけていました。とにかく「三食昼寝付き」が楽になり、食っちゃ寝とタバコ、そしてテレビという無為な一日を過ごす生活でした。たまに申し訳程度には通うものの、本心から積極的に自助グループに足が向くという感じではありませんでした。なので、思い過ごしだったと思いますが、僕を蔑むような病院仲間の視線を横目に行かない日々が続きました。

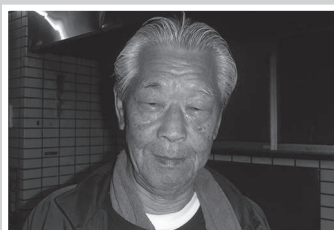
いつしか季節は真夏となり、怠け者の僕は外に出て汗をかくのが嫌だったこともあり、長い時には2カ月間も病院の中に閉じこもりました。夜間の自助グループに参加して病院に帰ってきた仲間からは「羨ましいなあ」と言われましたが、僕にはその言葉が嫌味に聞こえたとし、寂しさを少し感じていました。「自分も行けばいいことあるかな?」という思いとは裏腹に、「お前も(病院に)残ればいいじゃん!」という言葉が口をつこうとしましたが、さすがにこらえて飲み込みました。本当は、僕の方が彼らを羨ましく思えたのです。相変わらず仲間に素直に向き合えない自分でした。

そして生保に繋がりが7カ月したときにアパートを借りることが決まり、そのタイミングで顔見知りの自助グループの女性が入院してきたのです。「よろしくね!」と言われたのをきっかけに、その子と仲良くなりました。まだ、お互いの頭が酔っ払っている僕らは、そのまま付き合うようになりました。仲間達は「(依存症の回復にとって)一目ぼれは危険!」「共倒れが目に見えているよ」などと警告してくれましたが、僕ら二人は聞く耳を持たず、酔ったまま二人で退院後に婚姻届けを市役所に出しに行ってしまったのです。僕はこれによって、病院と相手の家族をも巻き込むトラブルに発展させてしまいました。

(次号に続く)

1月のバースデイ

もり



老体に鞭打って頑張ってます。

じゅうぞう



回復に向けて邁進します。

のぼる



新しい出会いを求めて♡

きく



色々あんだよ。

しげ



潮騒での経験を大切に!

びーと



ハイパーパワーを信じています。

1月の行事

- 1月 2日 潮騒初顔合わせ
- 1月 3日 潮騒 NA バースデー
- 1月 4日 鹿島神宮初詣&潮騒新年会
- 1月11日 潮騒俳句会
- 1月12日 潮騒ボウリング大会
- 1月14・20日 秋元病院メッセージ
- 1月27日 北関東アディクション関連問題検討会
(北関東薬物関連問題研究会)
- 1月28日 潮騒家族会

2月の行事予定

- 2月 3日 護国院豆まき
- 2月 5日 東松山市保護司研究協議会
研修来所
- 2月 8日 潮騒俳句会
- 2月11・17日 秋元病院メッセージ
- 2月25日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方(1月15日現在)

- ・谷岡 様
- ・大隈 照幸 様
- ・増古 富士男 様
- ・武藤 クニ子 様
- ・桐本 石見 様
- ・匿名希望(H) 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。

今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

個人的な話で恐縮だが、僕は潮騒JTCと関わって今年で9年目、来年は10年の節目を迎える。50代後半からの人生は、いわば潮騒の発展とともに歩んだ感じた。僕が潮騒に関わりだしたころ、潮騒は逆風に耐えながら曲折を経て、「鹿嶋潮騒ダルク」から「潮騒ジョブトレーニングセンター」に名前を変えて間もない時期で、やっとの思いで八方塞がりだったトンネルから抜け出して、その後の飛躍に向けた助走期間に入ったばかりだった。栗原センター長もスタッフも心機一転、「さあこれからだ」というエネルギーが周囲に包まれていた。苦勞の末に依存症リハビリ施設にもつてこいの、鹿嶋市郊外の農村部にある元クリニックだった建物を手に入れ、間取りを生かしながらプログラムにも工夫を凝らし、新たな船出をスタートさせたばかりだった。県道沿いのフェンスにはリニューアルした施設名の真新しい横断看板が設置され、目を引いた。地元の反発を招かないか?と老婆心を抱いたことを記憶している。亡くなった人も多いが、あの頃のメンバーもまだ何人か残っている。僕と同じように、みんなも年老いてきたが、なぜか栗原センター長とルミさんの二人は「この人達は年を取らないのだろうか?」と、今も不思議なくらい若さを感じさせる。時折、そのエネルギーの根源は何なのだろうと考えてしまう。根本にあるのは「本音で生きる」ことの強さだと僕は考えている。二人に必要なのは同じ依存症仲間だけであり、それ以外は余計なモノなのだという確信があるからなのだろう。「私にあるのは銀行からの借金だけ。失うものは何もない」(栗原センター長)というが、人生にとっての余計な荷物や虚飾を排した極めてシンプルで身軽な生き方が若さの秘密なのではなからうか。人生を身軽にできる良い手本が目の前にあるのに、僕はなかなか「余計なモノ」を捨てられない。昨年暮れから断捨離を決意し実行しているのだけれど、いろんな思い出が染みついた(ように見える)品々がいとおしく、処分できずにいる。まだまだ僕には回復のための「今日一日」精神が身に付いていないようだ。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年1号

Contents

- P②「2018年を就労支援第2ステージのスタート年に」
- P③ 潮騒農業と就労支援の充実、潮騒人間塾の取り組み強化へ
～今年初の潮騒プロジェクト会議で方針確認～
- P④ 歳末恒例の潮騒クリスマス会
女性メンバーがパフォーマンスで躍動
- P⑥ 初詣&初日の出
初訓示：迷ったら必ず回復プログラムに立ち返ろう!
- P⑦ 特別寄稿：百寿亭 年頭の決意
「居場所の提供」にこそ百寿の存在価値がある
- P⑧ 近藤恒夫インタビュー 第7回
「ユタカの凄いところは他を圧倒する行動力なんだ」
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 1月のお題「初日」
- P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」/1月のバースデー
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次



■ 編集・発行:

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)

〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号

〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館

(潮騒アディクション・ケアセンター)

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5

TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/

